

2022年2月20日（日）

宣教 「ペトロの告白」

聖書：マルコによる福音書8章27節～30節

◆ペトロ、信仰を言い表す

27:イエスは、弟子たちとフィリポ・カイサリア地方の方々の村にお出かけになった。その途中、弟子たちに、「人々は、わたしのことを何者だと言っているか」と言われた。

28:弟子たちは言った。「『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」

29:そこでイエスがお尋ねになった。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「あなたは、メシアです。」

30:するとイエスは、御自分のことをだれにも話さないようにと弟子たちを戒められた。

みなさん、おはようございます。

いよいよイエスの弟子のペトロがイエスをメシア・キリストであると告白する場面を迎えました。この話は、31節以降のイエスの受難と死、復活の予告、通常「受難予告」と呼ばれていますが、そことつながっています。そのことを覚えつつ今日は、ペトロが信仰を言い表す場面を見たいと思います。

◆ペトロ、信仰を言い表す

27:イエスは、弟子たちとフィリポ・カイサリア地方の方々の村にお出かけになった。

この時、イエスと12人の弟子たちは、ガリラヤ地方を離れ、フィリポ・カイサリア地方に出かけられました。この地方はベツサイダの村から北へ50kmほどです。

約2000年前は、イスラエルもこのフィリポ・カイサリア地方もローマ帝国の支配下でありました。絶対権力を持ったローマの皇帝カイザーが支配していました。もともとはユダヤの支配領域で、ユダヤのヘロデ大王亡き後、息子のフィリポが治めていましたが、ローマ皇帝に媚をうったのか、忤度をしたのか、町の名前に自分の名前とローマ皇帝の称号を入れて、フィリポ・カイサリアと名づけたのでした。ローマ帝国支配の地域ではよくあったようです。ちなみに地中海に面した場所に大きなカイザリアという町がありました。そこと区別す

るためにフィリポ・カイサリアと名付けられたのではないかとされています。

さて、28節、イエスはフィリポ・カイサリア地方に行く途中だったようです。弟子たちは、しばしユダヤを離れてイエスさまと共に旅をする時となり楽しい時であったのではないだろうかと思ってしまうのです。ほとんどの弟子たちが、毎日ガリラヤ湖畔で魚を獲ることを仕事としている漁師たちで旅をする機会もあまりなかったのではないのでしょうか。また大勢の人々の中で働き、そこからしばし離れて一息つく旅行気分を味わったのではないのでしょうか。身も心も軽くなる時です。

イエスご自身も自分の選ばれた弟子たちと共にいることに心軽くなられ打ち解けられたかのように、

「人々は、わたしのことを何者だと言っているか」と言われたのです。

ここでイエスは最初から、「あなたがたは、わたしを何者だと言うのか。」とは問われなかったのです。聖書研究者の田川健三さんは、これは、ペトロたちが、つまり弟子たちがイエスのことを人々にどのように言っているか、ということを探っている、と言われておられ確かにそのこともあるだろうな、と新しい気づきを与えられました。人々のイエスに対して言っていることは、弟子たちが人々にイエスについて語っていることの影響が大きいということです。人は伝えられたことの影響を受けるということです。そのことはわたしたちの場合でも「あの人は～」とか会話の中で言うことがあります。イエスのことを弟子たちがどのような思い、人々にどう伝えているのかということなのです。

ところで、みなさんは、イエスさまのことを家族や、人々にどのように伝えておられるのでしょうか？こういうことを自分が問われると、ドキッとします。「自分では伝えてないな～」とか、「信仰は自分のことだから特に伝える必要は感じない。」とか、「それは牧師先生のすること。」とか思うこともあると思います。でもイエスさまのことを伝える方法もいろいろあると思います。直接言葉でとか小さな愛の行いでとか、教会にお誘いするとか、教会で用いている「心の友」を渡すことも良い方法だと思います。自分のできる方法で伝えれば良いのだと思います。

イエスさまの問いかけに対して、弟子たちは答えました。

28:弟子たちは言った。『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤ

だ』と言う人も、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」

弟子たちは言った「洗礼者ヨハネだ」と言っていますとは、人々から離れて荒野に住み、質素な生活をし、ヨルダン川で、罪の悔い改めの洗礼を授けていたヨハネのことです。イエスもこのヨハネから洗礼を受けられました。救い主イエスの道を備えた人と言われていました。間違っただけの嫌いな正義感の強い人物でした。時の王の婚姻関係の問題に疑問を呈し、つかまって獄につながれ首をはねられて処刑されました。

またイエスを「エリヤだ」という人々もいたようです。エリヤは旧約聖書に出て来る紀元前9世紀ごろにいた北王国イスラエルの預言者です。彼は、いのちをかけてイスラエルの神、アブラハム・イサク・ヤコブの信じた神、ヤハウェを信じ抜きました。ついに土地の神バアルを信仰する王妃の反感をかい、いのちを狙われましたが奇跡的助かったことが旧約聖書には記されています。またエリアは、メシアである救い主が終末の時にこの世にあらわれる前に、やってくる人々に思われていました。

イエスは共にいる弟子たちに、尋ねられました。

29:そこでイエスがお尋ねになった。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「あなたは、メシアです。」

重い重要な問いかけです。イエスさまからの直接の問いかけです。

ペトロは答えました。「あなたは、メシアです。」と。メシアとは、イエスさまのそれはキリストのことです。キリストとうことばは、「油注がれた者」の意味で、ヘブル語のメシアのギリシア語訳です。

当時、王や大祭司、預言者などに用いられたようです。

弟子の筆頭格であったペトロの信仰の告白です。

ペトロの心の中から思わず出たことばだったのかもしれませんが。

しかし、この告白は以後、イエスの群れである教会の告白として大切に今日に至るまで受けつがれています。

このペトロの信仰の告白、初代教会の信仰の告白が、わたしたちがコロナ禍の前まで、毎週日曜日の礼拝で告白していた「使徒信条」教会としての告白の中に、「わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。わたしはそのひとり子、わたしたちの主、イエス・キリストを信じます。」という後の制度的な教会の告白につながっているのです。

信仰が継承されるということは、あたりまえのことではなく、伝える人がいなければ伝わらないのです。神さまの思い、人間のイエスさまに従う思いがなければ続かないのです。人間の個人的な信仰は大切ですがぐらつきやすいことも

現実です。そこで神さまに招かれたイエスにある群れとしての教会として告白が残ったのだと思っています。

イエスは再び弟子たちに言われました。

30:するとイエスは、御自分のことをだれにも話さないようにと弟子たちを戒められた。

当時、メシア期待は、政治的な期待感が強かったようで、イエスさまはご自身が政治的に利用されることを嫌われたと思われます。

イエスが神の子キリストであるということは、キリストの群れに与えられたかけがえのない信仰の告白なのです。

みなさんにとってイエスさまとはどういう方でしょうか。家族に人々に、知り合いにどのように伝えていきますか？わたしたちは、最終的に誰に何に従うでしょうか？ からし種一粒の信仰を大切にす者たちを憐み深い、愛なる神さまは、決してお見捨てにはなりません。しかし、神を侮ってはならないし、神を恐れ敬いながら生きることが、私たちが主の群れである教会が生きることになるのだと思わされるのです。

神さまは、従う力をも必要に応じて分に応じて与えてくださるのです。ですから互いに攻めあってはなりません。この世的に誇るものはなくても、貧しく肉体は弱って来ても、イエスをキリストと告白する者たちを群れを神さまは、決してお見捨てになることはないのです。

わたしの好きな音楽家 バッハ のモテット5番の冒頭の歌に

「イエスわがよろこび」という賛美があります。

ある方の訳でお伝えします。

「イエス、よろこび。わが ころの かがやきよ たえずしたい あこがれもて  
主をもとむ かみのひとり子 なれをおきて世に のぞむものなし」と。

イエスとは、誰か？ ここにも、はっきりと告白されていると思います。

アーメン！と共に告白したいのです。

皆さまの上に、主の平安を祈ります。